銅・鉄形安定器器具の熱的事故を防止するために

●安定器の使用温度

1.蛍光灯器具の周囲温度は5℃から35℃の範囲内でご使用ください。

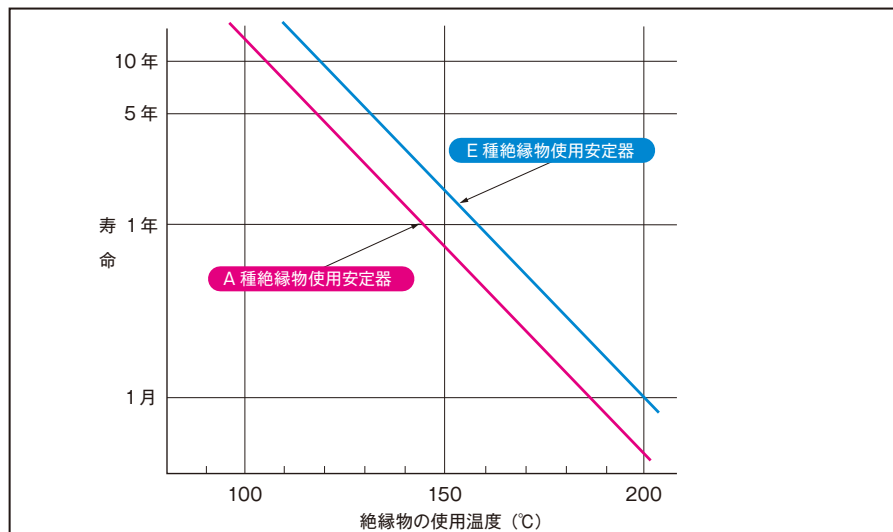
特別に設計されたものを除き、35℃を越えて使用された場合には巻線温度が規定以上となり寿命が短縮します。また、周囲温度が5℃以下になった場合にはランプが不点となったり、チラツキが発生することがあります。

2.器具を取り付ける周囲の温度をご確認ください。

器具の取り付けられる天井付近の周囲温度は室温より高いものです。たとえば、直付器具の場合でも通気が悪いと、室温より10℃近くも高くなることがあり、器具に与える影響も大です。器具取り付けの際には周囲温度を十分考慮する必要があります。

3.安定器別置のときは40℃以下でご使用ください。

蛍光灯用安定器を別置にして用いる場合には、安定器周囲温度を40℃以下でご使用ください。別置でかつ、安定器を収納箱内へ収める場合にも、収納箱内を40℃以下にするようご注意ください。

図1　使用温度と寿命（IECPub.60920より算出）

●器具の適正使用について

1.電源電圧の変動は定格の±6%の範囲内でご使用ください。
2.周波数が合っているか確認してください。
3.配線は、取扱説明書に表示されているとおりに結線してください。
4.安定器を別置にする場合には電気設備技術基準解釈206条による取付け制限をお守りください。
5.器具内で送り配線をする場合、電線が安定器に触れないよう配線してください。電線が安定器に触れると加熱し感電・火災の原因となります。

●安定器の寿命

安定器の寿命は、主として巻線部分に用いられている絶縁物の寿命によって決定されます。(図1参照)

絶縁物の平均寿命は、安定器を標準条件で使用した場合、8～10年間と考えられています。ところが、一般に安定器に使用されている絶縁物は、最高使用温度を8～10℃超えると寿命が半減するといわれています。

安定器寿命と使用温度とは密接な関係にありますので、注意事項を守ってご使用ください。

●安定器別置の際の注意点

●多数設置する場合には、安定器相互間隔を10cm以上あけてください。

●10cm以上とれない場合には換気や強制風冷などを行ってください。

●何段にも積み重ねて配置するときは、千鳥配置にするほうがより放熱効果があります。